

(様式2)

平成 25 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600369		
法人名	社会福祉法人いじみの福祉会		
事業所名	グループホーム陽だまり苑(米倉ユニット)		
所在地	新潟県新発田市岡田1746番地1		
自己評価作成日	平成 26年 3月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成26年3月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木造平屋造りで広く、自由に動ける空間を有していることで、車椅子でも自立して生活が送れています。また、当敷地内には特養が併設されており、支援体制も整っているため、心身状態が低下しても可能な限りグループホームで生活が送れるなど、利用者や家族の安心に繋がっています。

・利用者や家族、そして職員の絆を大切にしており、定期的に自宅に帰れる支援や家族が宿泊するなど、家族と共に過ごす時間を大切に支援しています。夏には七夕会、冬にはクリスマス会を開催して家族と一緒に楽しんでいただいています。

・日常生活における役割作りや、自分の思いを表しやすい関係作りに努めていることで張り合いを持ち、生き生きとした表情で生活をされています。

・苑の中庭の一面に畑を作り、利用者と職員と一緒に収穫して、採れた野菜を食卓にのせて楽しんでいただいています。

・利用者が快適にかつ安全に日常生活が送れるよう、日々環境整備に取り組んでいます。

・毎年、感染症の時期には、勉強会を開いて、シミュレーションを行い対応を学んだり、日常業務の中でも予防に努めています。また、利用者や家族、来苑者には、外出時や来苑時にマスクの着用や手洗いうがいを行っていただき、感染予防に理解と協力をいただいています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は食品工業団地の近くに位置しているが、道路から離れているため騒音等はなく静かな環境である。建物内には、リビングとは別に十分な広さのダイニングと家族室があり、面会や少人数での利用者同士の活動の場として利用されている。各居室はリビングに隣接していないので、静かでプライバシーも確保されている。

職員の年齢層も幅広く、お互いに協力・連携してチームワーク良く利用者の支援を行っている。事業所では個々の利用者の残存機能や生活への意欲に着目したケアを大切にしており、日頃から利用者が意見や希望を言いやすいように配慮し、また、できるだけ希望に沿うように対応をしている。調査当日も利用者からの希望や意見がケアに反映されている様子を確認することができた。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、利用者が住み慣れた地域で、その方らしく暮らせるよう理念を掲げ、それについての理解、方向性を統一しながら実践に繋げている。	「利用者の持つ力を日常生活の中で発揮できるように支援する」という理念に基づき、1年に1回振り返りシートを記載しミーティングや職員会議等でそれぞれが発表している。それにより、理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内行事への参加や、法人行事催し物等は、地域住民の協力、参加を得たり、地元行事の川東文化交流展、盆踊りに参加するなど地域との交流を大切に支援している。	事業所が工業団地の一角に位置しているため地域の住宅街とは距離があるが、利用者とともに地域の祭りやイベントに積極的に参加したり、商店への買い物等に出向いて行くなど、地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行するホーム便りを地域の回覧板に回していただき、利用者の生活ぶりや活動を紹介するとともに、地域の人々にも役立てていただけるような情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動やサービスの評価、取り組み状況を報告し話し合っており、そこでの情報や意見を反映させサービスの向上に生かしている。	利用者、家族、自治会長、民生委員、地域防災委員、地域包括支援センター職員を会議の構成メンバーとして2ヶ月に1回開催されている。会議の成果として、地域の防災支援体制が強化されたり、地域の人々や利用者家族の事業所への理解が深まるなど、運営に欠くことが出来ない会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加を働きかけ、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営上の問題など質問があれば、市の担当者へ随時、訪問や電話で問い合わせしており、協力的に対応してもらっている。また、市が主催する研修会や情報交換会には必ず職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、身体拘束をしないケアの実践に向け、職員会議にて勉強会を設け、正しく理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の身体拘束廃止委員会に職員も委員として参加しており、定期的に入職後3年未満職員など新人職員を対象とした研修会を行って周知している。日常的に、身体的拘束だけでなく心理的な拘束にも気を配り、拘束をせずに危険防止をするケアに努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、職員会議で高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の権利擁護についての研修を行っている。管理者は職員の言動で気になることがあれば随時指導したり、職員のストレスケアにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度を学ぶ機会として、成年後見制度について職員会議で勉強会を開催し、個々の必要性に応じ活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、利用者や家族等の不安や疑問点に対し十分な説明を行い、ホームの運営方針や支援のあり方について理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や家族等が意見、要望を話しやすい関係作りに努めており、家族来苑時には、ご利用者の様子を伝えながら日頃から意見、要望を聞いたりしている。また、玄関には意見箱を設置している。	利用者から出された意見や要望は、職員間で随時検討・協議しながら対応している。家族等には訪問時や電話連絡の折、または行事の際のミニ家族会等を利用して希望や要望を聞き取り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議の場で意見交換を行い、提案を聞く機会を設け意見を反映させている。	1ヶ月に1回、職員会議を開催して個別の利用者ケアや事業所の運営等についての話し合いが持たれている。また、日々のミーティング等においても職員同士の闊達な意見交換が行われており、職員の意見を反映した事業所運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の働きぶりを把握するとともに、半年に一度の自己評価を通し、各自仕事への見直しや新たな目標により、向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、新人研修を始めとし、法人内外の研修を受ける機会を確保している。また、個人の力量を把握し「あたり前シート」を活用するなど、働きながら人としても成長できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは、必要に応じて連絡を取り合い情報交換を行ったり、認知症リーダー研修の受け入れや訪問を通じてお互いの取り組みや問題、課題などを話し合う良い機会となっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時には本人と面談し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人に安心していただける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学時など、家族等と面談し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや相談員からの情報を元に、事前訪問で情報収集等を行い、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と一緒に外出したり、外食行事等に参加し、共に楽しんだり、日常生活に於いても、コミュニケーションを多く持ち、学び合う関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆を継続するため、苑内行事と一緒に参加していただいたり、遠方の家族には本人の様子を電話や写真、広報の陽だまりの詩でお伝えし、相談しながら共に支えていく関係を築いている。	利用者が希望する外出やドライブ、美容院等への対応は、家族と協力して行っている。利用者の情報は家族等と職員で共有し、必要時は協力して対応している。しかし、利用者一人ひとりに担当職員を配置してきめ細かい対応が出来るように努めているが、家族等に担当者を明示するまでには至っていない。	現在、事業所で実施している担当職員制を利用者と家族等に明示することが望まれる。それにより、家族等にとって話やすい窓口が明確になり、家族との協力関係が更に深められるのではないだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人が来苑されたときは、心置きなく過ごせる場所を提供し、再度来苑していただけるよう環境に配慮している。また、行きつけの理美容院の継続利用を支援している。	利用者の生まれ育った場所にドライブに出かけたり、昔なじみの公園等に外出することで、昔話を楽しんでいる。利用者の友人や親族等が気軽に立ち寄り、面会できるように雰囲気づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う者同士が会話できるテーブル座席の配置とし、また作業など一緒に行うことにより、良い関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、併設特養へ移られた方への面会や、家族からの相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当職員を置き、日々のケアの中で本人の希望や意見を聞いたり、センター方式のアセスメントシートの活用により、本人の意志を把握するよう努め検討している。	意見を確認できる利用者には、1対1になれる入浴時などを利用して意見を聞き取っている。意見が聞き取れない利用者には、日常の様子からくみ取ったり、家族等と相談して意向を確認している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集やセンター方式の活用により、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、家族等にセンター方式のアセスメントシートを記入してもらい情報収集を行っている。また、日頃の暮らしの中で利用者から聞き取った情報についても、職員間で共有することで、利用者への理解を深めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方や状態を毎日支援経過、健康チェック表に記入し、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために本人や家族の意向を取り入れ、カンファレンスを行い、状態変化があった時は、その都度見直す他、必要に応じて主治医の意見を伺ったり、本人にも参加していただき、それぞれの意見が反映されるよう、現状に即した介護計画を作成している。	本人及び家族の希望等を聞き取って職員間で協議し、併設施設の看護師や主治医等の意見も踏まえて介護計画を作成している。日常の経過記録に介護計画の達成状況を記載しており、適宜、見直し修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々に支援経過を記入し、重要な事柄はフロア日誌の記入と申し送りにて全職員が情報を共有し、実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応し、可能な限り本人や家族にとって一番良い状態であるような柔軟な支援ができる体制である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化交流展、盆踊り、火渡り修行への参加、ぶどう園の方々の協力の元、車椅子の方でも楽しめるよう工夫していただいている。また、消防署、地域消防団立会いの避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により主治医を定め、一人ひとりに合った適切な医療が受けられるように情報提供、相談を受けられる関係を築き支援している。	利用者と家族等が希望する主治医を基本としているが、協力医療機関に定期的な往診を依頼して受診しやすいように便宜をはかっている。緊急時には職員が受診に同行するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の関わりで捉えた情報や気づきを、併設特養の看護職、または掛かり付け医の看護師と連携を図り、一人ひとりに適した処置や看護が受けられるよう情報を共有し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族と相談した上で、ホームでの支援が可能な状態であれば早期退院もできるため、病院関係者との情報交換、相談に努め関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、終末期のあり方について、初期の段階から本人、家族に説明し、都度意向を確認している。そして、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	事業所では、看取り介護は実施しない方針である。入居時に事業所の方針を十分に説明し、本人・家族の意向確認書を作成しており、状態変化があった際にも十分に説明している。重度化に備えて、併設の特別養護老人ホーム等への申し込みをあらかじめ行っておくことを提案するなど、利用者や家族等に不安感を与えないように配慮している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて全職員は、ダミー人形を使用し、心肺蘇生等の訓練を実施している。また、急変時の対応についてはマニュアルが整備されており、訓練も行い実践力を身に付けている。	緊急時の救急救命訓練を行ったり、対応マニュアルが整備されており、併設の特別養護老人ホームの応援体制もできている。しかし実践的な訓練をするまでには至っていない。	職員が緊急時の対応で不安を感じることを聞き取り、その不安を解消するよう、より実践的な訓練等を行うことを期待する。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員は、消防署、地域消防団の参加のもと昼夜を想定した避難訓練を実施し、避難方法を身につけている。また、運営推進会議にて地元地域からの食料支援が受けられる協力体制を築いている。	事業所の立地から、火災や地震のほか、水害も含むリスクが考えられており、各災害に応じた避難計画が作成されており、年2回の避難訓練が行われている。併設の特別養護老人ホームへの連絡通路や、地域の防災組織の支援体制も確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの利用者が過ごしてきた背景や人格を把握、尊重し、一人ひとりに合わせた誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け、関わりをすることを念頭に置き対応している。	職員は、利用者の尊厳やプライドを損ねない言葉かけや接遇に配慮している。法人として接遇マニュアルが整備されており、接遇研修も定期的に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表しやすいよう、言葉掛けや環境作りを行うことで、本人自らが自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、事前に行事等の参加の有無、外出希望など、その日1日の過ごし方を本人の希望に添うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院への継続支援や起床時一人ひとり好みに合わせた洋服選び、お化粧といったお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食行事では事前にメニューを取り寄せ、好きな物を注文し、職員と外食を楽しんでいただいている。また、利用者の希望に応じたメニューを取り入れ、一人ひとりの能力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	献立は、利用者の嗜好や栄養バランスを考慮して作成されている。調理や後片付け等には利用者も参加して役割を担っている。食事の時間は利用者同士や職員と会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時のカロリー計算や、栄養バランスを考えたメニュー作りを行い、管理栄養士のアドバイスをもらっている。また、一人ひとりの食事形態、水分量、体重増減を考慮し、食事チェックシートを活用し健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた介助や声掛けを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、就寝時には義歯をケースに保管し、安全にも配慮している。希望によっては、定期的に歯科検診も受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムをチェック表にて把握し、適時声掛けや誘導により気持ち良くトイレで排泄できるよう、また、わかりやすくトイレの場所を表示し、自立に向けた支援を行っている。	事業所には、トイレが1ユニットに5ヶ所と多く設置されており、トイレを基本として排泄支援が行われている。利用者一人ひとりの排泄確認を排泄チェック表等を用いて行い、その人に合わせた排泄支援用具を使用するなど個別対応を行って自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や食物繊維を多く取り入れた食事となるように配慮し、毎日牛乳とオリゴ糖入りのヨーグルトを提供したり、日常的に支援している適度な運動や、入浴後の水分補給を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望により、気の合う同志で入浴して頂いたり、本人の好むメーカーの物品を使用して頂いたり、ゆず湯、菖蒲湯等の季節行事を取り入れる等、楽しんで入浴できるよう支援している。	2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況に合わせて毎日でも入浴することが可能である。浴室は利用者と職員が1対1で関わる場所でもあり、会話を楽しみながら入浴支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、本人のペースで居室やデイルーム、リビングで休める環境を整えている。就寝時間も個々の生活習慣や状況に応じて支援している。夜には不安を感じる方には、内鍵をかけていただき安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や服用している薬の効果を理解し、医師の指示通り服薬できるよう支援し、また、便秘日数を把握し下剤服用後の様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事などを把握し、家事作業や軽作業などに参加した後で、楽しいなコーヒータ임을過ごし、午後のレクリエーション参加、毎月行うお誕生日会の合同開催でのカラオケ、ゲーム、お茶会など楽しみごとへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って買い物時の同行やホーム周りの散歩、地域の催し物の参加、ホーム外での食事や日帰り温泉等、家族の協力も得ながら普段行けない所へ出かけられるよう支援している。	天気がよい時季には、事業所の周りを散歩している。月2回、季節に応じてドライブや買い物等の外出行事を企画しており、利用者の楽しみとなっている。また、事業所では対応できない利用者の外出希望等には、家族等に依頼するなどして対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことで安心感を得られることを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて家族了解のもとお金を所持したり、職員と共に買い物に行き希望の品を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ携帯電話を所持したり、本人の希望により苑の電話を利用して、電話を掛けられるように支援している。また、本人の言葉を代筆し手紙のやり取りができる支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からは心地よい光が差し込み、明るく開放的な造りとなっており、快適な温度や湿度、臭気に配慮している。また、ダイニングには季節に合った飾り付けを利用者と職員で行い、季節感を感じて頂けるようにしている。	食堂兼リビングのほかにも談話コーナーが2か所あり、面会時や少数の利用者同士で会話を楽しむ際に利用できるよう配慮されている。家具や飾りつけなどは家庭的で温かみがあり、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは状況に合わせ、気の合った利用者同士で会話ができるよう席の配置に配慮したり、少し離れたダイルームにはテーブルとイスを設置して、自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、入居時に自宅で使用していた馴染みの物品をそのまま使用していただき、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室には洗面台と十分な収納庫が備え付けてあり、天井も高く開放感がある。家具やTV等は自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでもらい、利用者が安心して生活できる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで車椅子でも可能な広いスペースの廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され、場所の理解ができない利用者にもわかりやすいトイレ表示等により、安全かつできるだけ自立した生活が送られるよう工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				